

『EM処理容器豆知識』

『EM処理容器』とは、EM菌（有用微生物群）を利用して生ごみを発酵・分解して堆肥化する容器で、バケツ程度の大きさのため、室内でも利用できます。

なお、容器の他に発酵剤（ボカシ）が必要です。

<使い方>

『日経アイビー発行「月刊廃棄物」2001年4月号』にて、掲載されておりました使い方を紹介します。



【設置場所】

室内、屋外どちらでも大丈夫です。

【設置方法】

- ①平らな場所に設置します。
- ②水分を抜く作業がありますので、台の上が便利です。

【使用方法】

<その1>

- ①三角コーナーで、よく水切りをした生ごみを容器に投入します。

*小さめにカットしたり、卵の殻はつぶすと発酵しやすくなります

- ②生ごみの上にボカシを振りかけ、混ぜ込みます。

※振りかけるボカシの目安

通常の場合 : 生ごみ1kg当たり10～20g程度

肉類や水気の多い場合 : 生ごみ1kg当たり30～40g程度

- ③容器のフタをしっかり閉めます。

*フタがふくれたら開けてガスを抜く

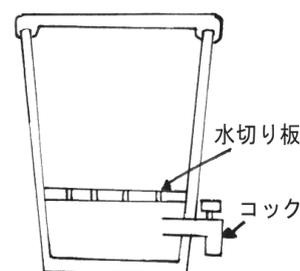
- ④底に溜まった液（液肥）を、こまめに抜きます。

*この液は、生ごみの養分や乳酸菌などがたくさん含まれてますので、液肥として利用できます（2000倍程度に水で薄めて使用して下さい）。

<注意>①～④の作業を容器がいっぱいになるまで繰り返します。

- ⑤いっぱいになったら密閉したまま、7～10日間直射日光の当たらない所で熟成させます。

※肝心なのは生ごみを腐敗させないことです。少しでも腐敗がすればすぐに多めにボカシを振りかけてください。



【注意点】

☆生ごみの中に、プラスチック類・タバコなどの異物を入れないようにしましょう。

※ビニールやプラスチックは、分解せずそのままの形で残ってしまいます。またタバコなどは、有害物が入るとたい肥として利用できなくなってしまいます。



【ポイント】

◆その日の生ごみはその日の内に処理。夏場は腐敗が早いのでその都度処理しましょう。

◆生ごみの臭いは、ぬか漬けのような甘酸っぱい酸味のある臭いになります。

《生ごみのぼかしあえの利用方法》

<畑>

①20～30cmの深さの溝を掘ります。

②生ごみのぼかしあえを土と混ぜながら入れます。

③土は10cmはかぶせます。種蒔きや苗の植付けは10日程たってからにします。

<庭>

①20～30cmの穴を掘ります。

②生ごみのぼかしあえを土と混ぜながら入れます。

③土は10cmはかぶせる。生ごみのぼかしあえが庭木の根っこにあたらないよう気を付けます。

<プランター>

①生ごみのぼかしあえは土とよく混めます。

②10日間くらいは雨や虫除けのためビニールなどでおおっておきます。

●処理容器がいっぱいになったら

穴が浅いと、犬や猫が掘り返して食べてしまいますから、深さ30cmほど掘り、生ごみを埋めたときに、上に10cm以上は土をかぶせるようにしてください。

肥料として使う場合、必ず植物から少し離れたところに埋めてください。

